

インドネシア

ブラビジャヤ大学
留学に関する報告

高知大学
人文学部
国際社会コミュニケーション学科

滞在期間 2014年8月～2015年6月

○滞在期間

2014年8月～2015年6月

○滞在场所

ブラビジャヤ大学（インドネシア）

○感想

学習に関するレポート -----

今回の留学において、私が履修した科目は7科目です。9月に学内 TOEFL を受験させてもらい、その成績を基に、英文学科長が前期の履修科目を決めてくださり、そして、後期は自ら、なんの基礎が足りていないか、それを考えたうえで決めました。

1科目を除き、すべて読み・書き・聞く（話す）の基礎を身に付ける授業で、インドネシア語と英語のミックスとはいえ、自分の英語伝達力の低さ、そして、インドネシア人学生の英語力の高さを感じました。率直に言うと、文法知識で言えば明らかに日本人のほうが豊富で賢いですが、決定的な違いは、文法が正しい正しくないに限らず、インドネシア人学生の方が英語を使ってきた場数が多いということです。ゆえに、こちらの文法に誤りがあったとしても言いたいことがしっかり伝わるので、英語をアウトプットする練習の機会としては、十分によかったと感じています。

次に、授業の様子ですが、高知大学にもいくつかある、200人で受けるような授業体形はありません。1つのクラスにつき、およそ40～50人ほどといったところです。また、1つの科目につき5つほどクラスが分かれています。そして、履修登録の仕方も少し異なり、Webシラバスから授業を選び、登録するのは同じですが、それを決められた様式に沿って用紙を作成し、学科長や担当の先生に持っていき、相談しながら決定し、サインをもらって最終決定となります。キャンセルする場合も、学科長等のサインをもらう必要があります。

最後に、読み書きについては日本で主に学んできたため、そこまで難しいとは感じませんでしたが、聴く・話すの授業では、短い英語のビデオをグループで1つ見つけてきて、それをクラスで紹介しつつ、それについての意見、感想等を述べるというものは、不慣れな分、やはり難しいと感じました。また、インドネシア人の英語の発音も結局はインドネシア語なまりです。聴き慣れたアメリカ英語の発音だけでなく、そういうなまりのある英語も体験できるので、インドネシア留学はポジティブなものとなりました。

生活に関するレポート -----

まずインドネシアは、母国語はインドネシア語です。学生はある程度英語を使えますが、キャンパス外ではインドネシア語メインになります。しかし、ブラウイジャヤ大学には日本語学科があるため、日本語が流暢なインドネシア人学生・先生がいるので、私はインドネシア語0の状態だったので、常にサポートしてもらっています。しかし、寮や一人でキャンパス外の屋台へご飯を買いに行くときに、インドネシア語を使う必要性を大いに感じたので、わずかな基礎文法のみ独学で勉強し、あとは会話から身につけました。個人の勉強量によりませんが、勉強しなくても半年ちょっとあればある程度話せるようになりました。

大学では、日本語学科だけでも年に2回文化祭が開かれたり、学部対抗や学科対抗のフットサル大会などさまざまな行事が行われます。ゆえに、いかに日本の文化がインドネシアで人気か感じることができました。

気候について、インドネシアは乾季・雨季の二つしかありません。乾季は、全く雨が降らず、日中は暑いですが、朝と夜は長袖が必要なほど冷えます。雨季はその名のとおりに、日中は大雨が降り、外出先では傘が必要です。また日本の梅雨と違って、雨の時から振り終わったあとでも、気温が下がるので、上着があるといいです。季節の変わり目はインドネシア人でも風邪をひきやすく、特に雨季になる時は、インドネシアに来て3ヶ月ほどになるので、腹痛に気をつけてください。

大学周辺では、コンビニ、ショッピングモール、屋台すべて歩いて行ける距離にあります。また少し遠出するときは、アンコタ(アンコット)と呼ばれる乗り合わせバスに乗って、いたるところに行くことができます。また、多くの人は移動をバイクでします。バイクに乗れる人は現地で買って乗ることもできますが、日本と比べて、人々の交通マナーはいいとは言えないので、個人的にはあまりおすすめしませんが、便利になることは間違いありません。

最後に、インドネシアではSIMフリーの携帯(タブレット)を持っていくことをおすすめします。私自身Wi-Fi環境のみでしか連絡が取れず、しばしば困ることがありました。そして、6月中旬~7月中旬まで1ヶ月間、ラマダンがあり、学生の大半は帰省します。帰国日は、断食期間がわかってから決めるのも一つだと思います。

インドネシア留学を通して、単純に異文化体験・理解だけでなく、自文化理解への不足を痛感させられ、インドネシアを選んでよかったと感じました。